

御嶽山の火山活動解説資料（平成 24 年 12 月）

気象庁地震火山部
火山監視・情報センター

火山活動に特段の変化はなく、火口周辺に影響を及ぼす噴火の兆候は認められません。
平成 20 年 3 月 31 日に噴火予報（噴火警戒レベル 1、平常）を発表しました。その後、予報警報事項に変更はありません。

○ 活動状況

・噴気など表面現象の状況（図 1、図 3 - ①※）

三岳黒沢（剣ヶ峰の南東約 14km）に設置している遠望カメラによる観測では、山頂付近に噴気は認められませんでした。長野県が王滝村滝越（剣ヶ峰の南南西約 6 km）に設置している監視カメラによる観測では、地獄谷の噴気孔からの噴気の高さは 0～50m で経過しました。

・地震や微動の発生状況（図 3 - ②③、図 4 ※）

御嶽山付近を震源とする火山性地震の発生回数は少なく、地震活動は静穏に経過しました。火山性微動は観測されませんでした。

・地殻変動の状況（図 3 - ④⑤⑥※⑦※）

GPS 連続観測では、火山活動によるとみられる変動は認められませんでした。



図 1 御嶽山 山頂部の状況
(12 月 27 日 三岳黒沢遠望カメラによる)

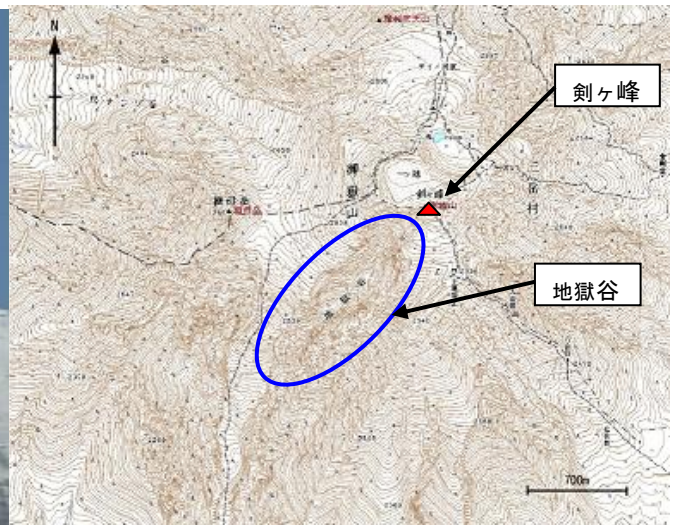


図 2 御嶽山 噴気孔（地獄谷）位置図

この火山活動解説資料は気象庁ホームページ (<http://www.seisvol.kishou.go.jp/tokyo/volcano.html>) でも閲覧することができます。次回の火山活動解説資料（平成 25 年 1 月分）は平成 25 年 2 月 7 日に発表する予定です。

※この記号の資料は気象庁のほか、国土地理院、東京大学、京都大学、名古屋大学、独立行政法人防災科学技術研究所、長野県及び岐阜県のデータも利用して作成しています。

資料中の地図の作成に当たっては、国土地理院長の承認を得て、同院発行の『数値地図 25000（行政界・海岸線）』『数値地図 25000（地図画像）』『数値地図 50mメッシュ（標高）』を使用しています（承認番号：平 23 情使、第 467 号）。

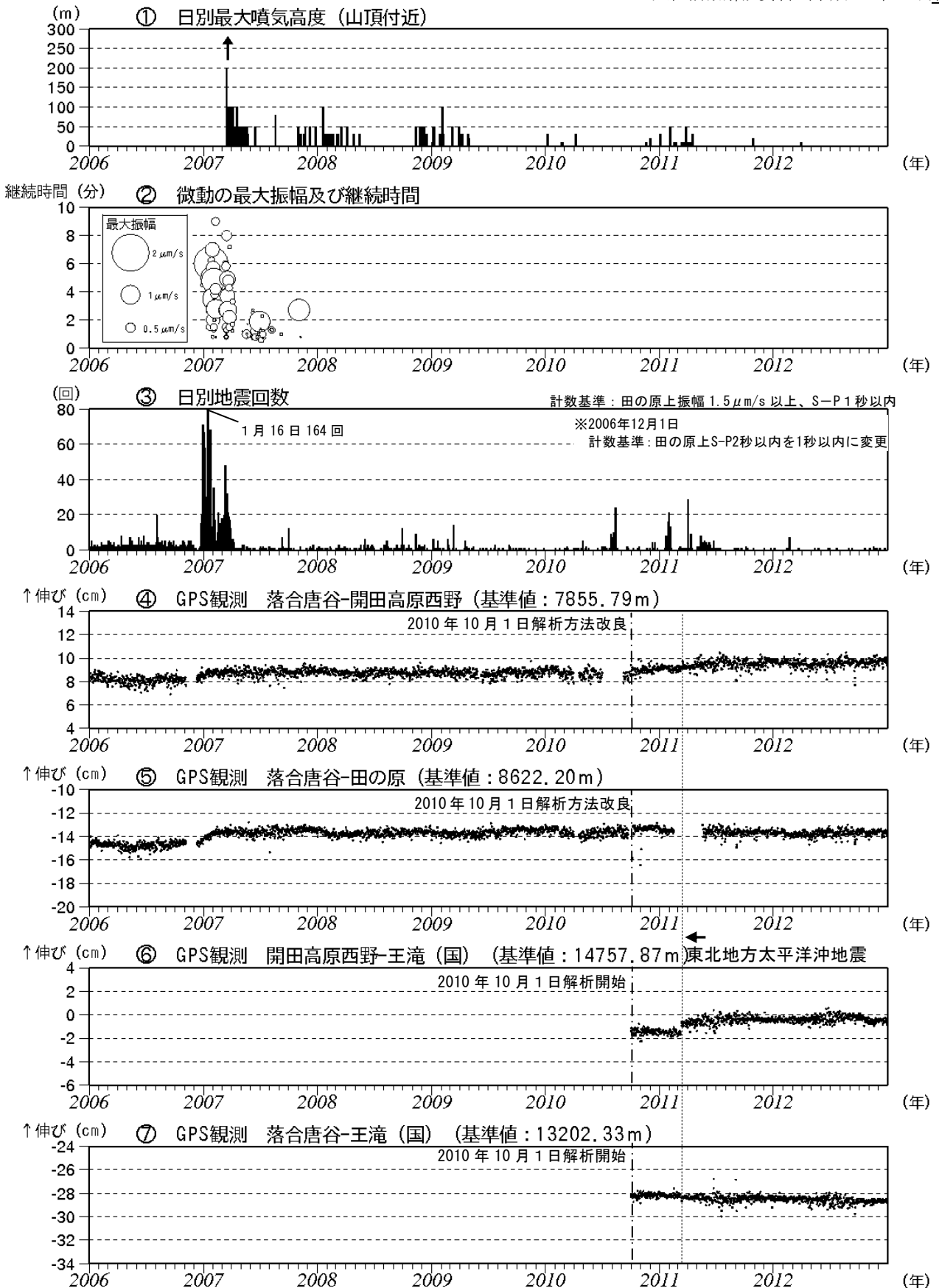


図3 御嶽山 最近の火山活動経過図（2006年1月1日～2012年12月31日）

- ①*定時観測（09時・15時）による日別最大噴気高度
矢印はごく小規模な噴火を示します。
- ④⑤⑥*⑦* GPS連続観測による基線長変化（国）：国土地理院
⑥には東北地方太平洋沖地震（2011年3月11日）に伴うステップ状の変化がみられます。
2010年10月以降のデータについては、電離層の影響を補正する等、解析方法を改良しています。
図中④⑤⑥*⑦*は図5のGPS基線④～⑦に対応します。グラフの空白部分は欠測を示します。

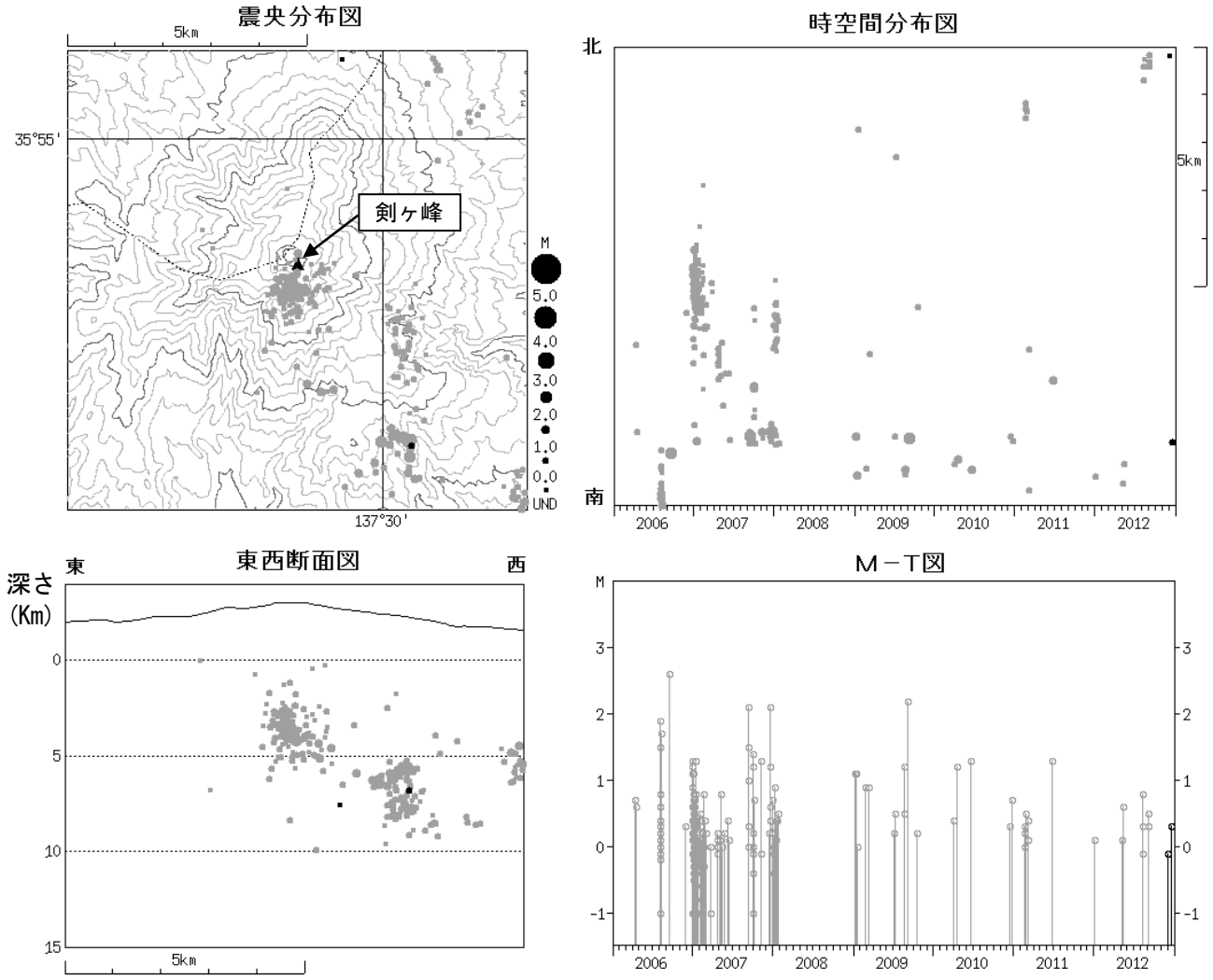
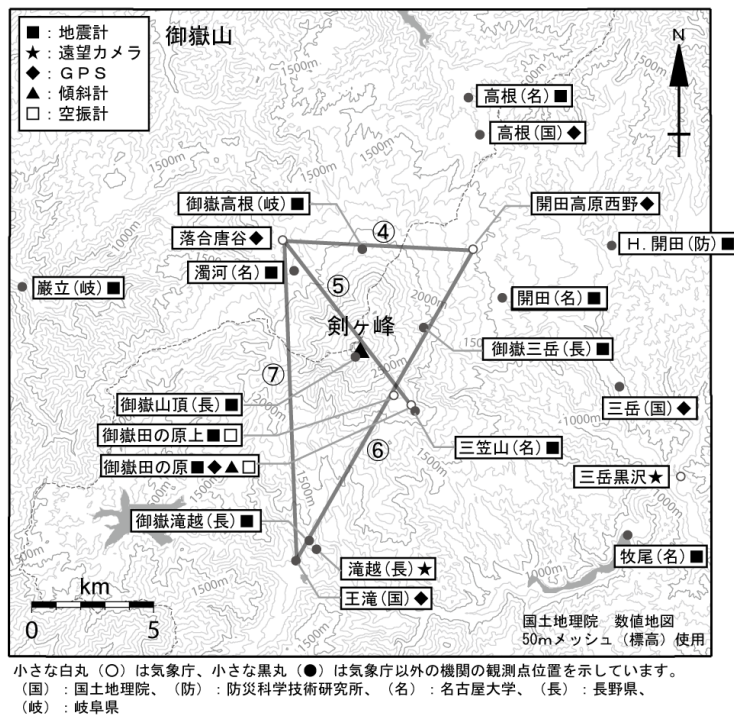


図 4※ 御嶽山 広域地震観測網による山体・周辺の震源分布図（2006 年 1 月 1 日～2012 年 12 月 31 日）
 ●：2006 年 1 月 1 日～2012 年 11 月 30 日 ●：2012 年 12 月 1 日～12 月 31 日
 M（マグニチュード）は地震の規模を表します。
 図中の震源要素は一部暫定値が含まれており、後日変更することがあります。



小さな白丸（○）は気象庁、小さな黒丸（●）は気象庁以外の機関の観測点位置を示しています。
 (国)：国土地理院、(防)：防災科学技術研究所、(名)：名古屋大学、(長)：長野県、
 (岐)：岐阜県

図 5 御嶽山 観測点配置図
 図中の GPS 基線④～⑦は図 3 の④⑤⑥※⑦※に対応しています。